**様式１**　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　（表面）

**平成２４年度　東北大学等との連携による震災復興支援・災害科学研究推進活動サポート経費　要求書**

部　局　名　：国際文化学研究科

|  |  |
| --- | --- |
| **事業名****（要求事項）** | **フィールドワークおよび記録・保存のスキルの被災地学生・大学院生に対する移転**―震災被害状況の共同フィールドワークと記録・保存作業を通したコミュニティ再構築のサポート― |
| **代表者** | 所　属　部　局 | 職 |  |
| 国際文化学研究科 | 教授 |  |
| **組　織** | 氏　　名 | 所属研究機関・部局・職 | 役　割　分　担 |
| 梅屋　潔高倉　浩樹政岡　伸洋金菱　清 | 神戸大学大学院・国際文化学研究科・准教授東北大学・東北アジア研究センター・准教授東北学院大学・文学部・教授東北学院大学・教養学部・准教授 | 代表補佐、現地（宮城を中心とする東北各地）との連携現地コーディネーター、大学院生等のリクルート・監督現地コーディネーター、大学院生等のリクルート・監督現地コーディネーター、大学院生等のリクルート・監督 |
| **要求理由（概要・目的）** |
| 1. **概要：**東北大学等の学生とともに地域住民と協力しつつ共同フィールドワークを行い、フィールドワークの技法の伝授、また阪神淡路大震災からの復興プロセスとそのプロセスの記録方法や技術、淡路における風評被害の克服のプロセス、破壊されたコミュニティの再構築などの知識を伝え、自助的な復興のサポートを行う。
2. **目的：**コミュニティ復興のプロセスに関するフィールドワークの技法、・資料整理、検討作業を地域住民の協力を得ながら、地元学生および東北大学等の教員と共同で行う事により、今後の自助的な調査をうながす事を目的とする。また得られた資料は、東北大学等の研究教育機関、地方自治体、地元住民に還元するとともに災害復興研究の基本的資料として蓄積し、現地学生・地元住民がコミュティ再構築のアイデアを生み出す学術的・社会的資源とする。

代表者（岡田）と代表補佐（梅屋）は、2012年3月まで、宮城県が東北大学アジア研究センターに委託した無形文化財の被災状況と復興状況を把握する緊急プロジェクト調査に東北大学等の大学生および大学院生を調査補助として帯同した。その際に文化人類学・民俗学の質的調査（フィールドワーク）、阪神淡路大震災の研究調査の経験から得られた復興のプロセスの調査、記録などのスキルを被災地の学生や地元住民に教授して欲しいという要請を受けた。この現地の要請に応じ、災害復興およびその支援の効果的な実施とそのフィールドワークのスキルを伝授し、復興支援の人材発掘とサポートを行うとともに、コミュニティ再構築のプロセスに関するアクションリサーチを行う。この活動を通して、阪神淡路大震災の復興の経験や資料をもつ神戸大学と今後の復興に取り組む東北大学等の間に、研究・教育協力関係を築き、被災地への復興に寄与する。復興プロセスの比較、共同の取り組みの検証を通して、今後起きうる災害への対応における大学連携のひとつのあり方を提供する。また、正規の講義・演習に組み込むことは難しいが、神戸大学の学生・大学院生の参加希望者がいる場合は、積極的に帯同し、活動に加わることで大学間の学生交流を促進する。 |
| **計　画　・　方　法** |
| 宮城県を中心に（岡田は松島、梅屋は気仙沼を主対象とする）、集中的な現地共同調査を実施し、文化人類学的、民俗学的な質的フィールドワークの技法による被災状況と復興状況をエスノグラフィーとして記録する。とともに、別地域の事例としてすでに調査・研究した実績のある、神戸市長田や南淡路の地域の取り組みについて（岡田）、また無形文化財の復興財源について（梅屋）適宜紹介しつつ、現地のコミュニティ再構築のアドバイザーとしてのサポートを行う。この際に東北大学等の学生を記録補助として帯同し、学生に復興当事者としての自覚を促すとともに、フィールドワークを通じて、より効果的なコミュニティの再生の担い手としての能力を涵養する。また、地元出身の学生に、より細かな地元住民の状況の聞き取り、被災地状況の社会的・文化的脈絡の理解についてのサポートを依頼する。最終報告書の編集という共同作業、現地コーディネーター教員へのレポート提出を通じ、学生としての基礎的なスキル向上をもはかる。最終報告書のPDFはweb上で公開し、収集した資料全体については東北大学等の研究教育機関・地方自治体、地域住民に還元するなど、活動の社会的還元を図る。また宮城県の無形民俗調査が継続される際には、これと連携し、成果の共有を図る。したがって事業費の用途は神戸大学教員の調査出張旅費と現地調査の学生雇用であり、旅費以外の予算については東北大学等が負担（資料整理など）する予定。具体的なタイムスケジュールは以下の通り。4　　　　5　　　　6　　　　7　　　　8　　　　9　　　　10　　　　11　　　　12　　　　1　　　　2　　　　3

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| 予備的調査段階（学生のリクルートと事前教育、短期のフィールドワークを含む） | 集中的活動期間（現地で集中的に調査・支援活動を実施） | フィードバック（新しい知見をまとめる） | 補足的調査・活動期間（フィードバックされた知見を実地調査・活動に反映） | 報告書編集（学生たちとの共同作業で報告書を編纂） |

 |

（裏面）

|  |
| --- |
| **期待される具体的な効果･今後の展開** |
| 1. 期待される具体的な効果

期待される具体的な効果は4点に集約される。**①復興のプロセスの基礎資料蓄積と被災地への還元**：震災被害の現状と復興の過程、そしてコミュニティ再構築のプロセスを、その中に関与しつつ関わりながら記録することで基本的資料の蓄積を現地に還元する。**②他地域の事例についての情報提供：**阪神・淡路大震災も含めて、全く別の地域の復興や地域興しの事例を通じて現地の復興にヒントを与えられる。**③復興への学生の効果的な関与**：上記にともに関わることで、今後復興に関して深い理解と優れたビジョンを備えた学生を養成できる。**④現地学生の調査研究の継続**：活動を通し、学生が被災地を調査するスキルを習得し、調査への意欲をもつことで、共同調査終了後も主体的に調査を継続することを促進する。副次的な効果としては、東北の被災地と阪神淡路震災被災地の二つの地域の人的交流のネットワークを活性化する効果がある。震災からの復興には社会的な関心が薄れた後の継続的なサポートが必要である。神戸などの復興支援グループに今回の活動や成果などを伝え、地域住民ネットワーク間の協力を強化、継続させる効果も期待される。1. 今後の展開

本計画に参加した学生がその事業を引き継いで行くことが期待しており、また、これを町村レベルの地方自治体や地域住民に移転していくことが望ましく、その第一段階として、東北大学等の学生（および教員）との間に、復興のプロセスの調査・資料蓄積、研究・教育ネットワークを構築し、次の段階に展開しようというものである。被災地の現状は依然として厳しく、コミュニティ、有形・無形の民俗文化などソフト面での被害状況は把握されているとは言い難いのが実情である。宮城県はようやく無形文化などの被災状況把握に向けて2011年11月にようやく着手し始めたところであり、今後も実態把握のための調査は緊急の課題であるもの、人的資源が不足している。人材育成の段階的育成とそれらの人材のサポート、さらには他の自然災害等に応用しうるプロセスの検討が次の段階となる。 |
| **経　費** | **使　用　内　訳** |
| 合　　計 | 旅費・謝金 | 事業費 | 消耗品費 | その他 |
| 千円 | 千円 | 千円 | 千円 | 千円 |
| 1,099,300 | 1,099,300 | 0 | 0 | 0 |
| **使　用　内　訳　明　細** |
|  | 品　名 | 仕　様 | 単　価 | 数　量 | 計 |
| 旅費・謝金 | 旅費（神戸⇔松島）旅費（神戸⇔気仙沼）旅費（仙台⇔松島）旅費（仙台⇔気仙沼）謝金 | 3泊4日3泊4日3泊4日3泊4日調査・活動補助 | 87,000＠88,460＠15,800＠18,600＠8h ×＠5,000 | 555510 | **計** | 435,000 442,300 79,00093,00050,000**1,099,300** |
| 事業費 |  |  |  |  | 計 | **0** |
| 消耗品費 |  |  |  |  | **計** | **0** |
| その他 |  |  |  |  | **計** | **0** |
| **他の事業等での配分状況の有無（現在申請中も含む）　　　　□有　　・　　☑無** |
| （「有」の場合，下記項目に○印を付してください）・【国立大学協会】震災復興・日本再生支援事業　　申請中　・採択済・その他（　募集機関名：　　　　　　　　　　事業名：　　　　　　　　　　　　　）　　申請中　・採択済 |

**平成２４年度　東北大学等との連携による震災復興支援・災害科学研究推進**

**活動サポート経費　要求書　記入要領**

1. **「事業名」欄**

字数制限はありませんが，なるべく簡潔かつ具体的に記入してください。

1. **「代表者」欄**

　　代表者は，本学の教職員（非常勤教職員を除く）としてください。

1. **「組織」欄**

代表者以外にこの課題に役割分担を持って参画する分担者がいる場合，この欄に記入してください。

1. **「要求理由（概要・目的）」欄**

なぜ本経費を要求するのか，また，この申請によって，（１）どういった目的で行うのか，どこまで実現しようとするのか，（２）本学と東北大学等との連携よってどのような意義があるのかなどについて具体的かつ明確に記入してください。

1. **「計画・方法」欄**

目的を達成するための計画・方法を事業費との関連や，代表者・分担者の相互関係（役割分担状況）等も含めて具体的に記入してください。

また，他機関等との関連があるものについては，その関連性についても記入してください。

1. **「期待される具体的な効果・今後の展開」欄**

具体的かつ明確に記入してください。

　　なお，要求種目が研究に係るものについては，将来どのように他機関との連携を図るかも記入してください。

1. **「使用内訳」欄**

使用内訳は千円単位で記入してください。（該当する経費がない場合は「０」を記入。）

１件あたり合計１００万円を上限とします。

1. **「使用内訳明細」欄**

申請時点での使用内訳明細（品名，仕様，単価，数量，金額，その他の特筆すべき事項等）を記入してください。「使用内訳明細」欄の合計金額は必ず「使用内訳」欄で記入した金額と合致すること。

　　各経費記載例：旅費・謝金，事業費（会議開催費(会場借上料)，印刷製本費），消耗品費（メモリーカード），その他（通信費（切手，葉書））

1. **その他**

・基本的に文書スタイルは変えないように記入してください。ただし，記入事項が欄内に収まらない場合は，他の欄の大きさを調節してその欄の大きさを変更する，又はフォントの大きさを変更する等というような変更は可です。

・用紙はＡ４判**両面１枚**に印刷してください。（枚数を増やすことはできません。）

・提出はメールでも結構です。（メールアドレス：gksh-jimu@research.kobe-u.ac.jp ）

**様式１**　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　（表面）

**平成２４年度　東北大学等との連携による震災復興支援災害科学研究推進活動サポート経費　要求書**

部　局　名　：

|  |  |
| --- | --- |
| **事業名****（要求事項）** | ○○○の○○○が期待される○○○○（字数制限はありませんが，なるべく簡潔かつ具体的に記入すること。） |
| **代表者** | 所　属　部　局代表者は本学の教員（非常勤教員を除く）とすること。 | 職 |  |
| ○○○部局 | 教授 | ○○　○○ |
| **組　織** | 氏　　名 | 所属研究機関・部局・職 | 役　割　分　担 |
| ○○○　○○□□　　□□××　×××代表者の他にこの課題に役割分担を持って参画する分担者を記入すること。 | ○○部・教授□□部・准教授××部・准教授 | それぞれの関連が分かるように記入すること。 |
| **要求理由・目的** |
| １．概要本経費を要求する理由を具体的かつ明確に記入すること。２．目的どういった目的で行うのか，またどこまで実現しようとするのか，本学と東北大学にとってどのような意義があるかなどについて具体的かつ明確に記入してください。  |
| **計　画　・　方　法** |
| 目的を達成するための計画・方法を事業費との関連や，代表者・分担者の相互関係（役割分担状況）等も含めて具体的に記入すること。また，他機関との関連があるものについては，その関連性についても記入すること。 |

（裏面）

|  |
| --- |
| **期待される具体的な効果・今後の展開** |
| 具体的かつ明確に記入すること。なお，要求種目が研究に係るものについては，将来どのように他機関との連携を図るかも記入してください。 |
| **経　費** | **使　用　内　訳** |
| 合　　計 | 旅費・謝金 | 事業費 | 消耗品費 | その他 |
| 千円 | 千円 | 千円 | 千円 | 千円 |
| ９３２ | １５７ | ５００ | ９０ | １８５ |
| **使　用　内　訳　明　細** |
|  | 品　名 | 仕　様 | 単　価 | 数　量 | 計 |
| 旅費・謝金 | 旅費謝金等 | 教授　仙台　１泊２日○○に係る資料整理 | 58,4204ｈ×@950 | １人13日×2人 | **計** | 58,42098,800**157,220** |
| 事業費 | 会議開催費(会場借上料)印刷製本費 |  | 200,000300,000 | 11 | **計** | 200,000300,000**500,000** |
| 消耗品費 | メモリースティック | I-O DATA　512MB | 15,000 | 6 | **計** | 90,000**90,000** |
| その他 | 切手葉書 |  | 8050 | 2,000500 | **計** | 160,00025,000**185,000** |
| **他の事業等での配分状況の有無（現在申請中も含む）　　　　■有　　・　　□無** |
| （「有」の場合，下記項目に○印を付してください）・【国立大学協会】震災復興・日本再生支援事業　　申請中　・採択済・その他（　募集機関名：三井物産(株)　　事業名：三井物産環境基金 東日本大震災 復興助成 (活動助成)）　申請中　・採択済 |

**様式２**

**平成２４年度　東北大学等との連携による震災復興支援災害科学研究推進活動サポート経費**

**実施報告書**

部局名：

|  |  |
| --- | --- |
| 事　業　名 |  |
| 代　表　者 | 所属部局：　　　　　　　　職：　　　　　　　　氏名： |
| 事業の実施内容 |  |
| 事業実施の成果 | 「本経費が役立った内容」，「どのような事柄に繋がったか」も併せて記載する。具体的に分かりやすく簡潔に記載する。 |
| 今後の計画 | 「どのような事に繋げようとしているか」も併せて記載する。また、事業結果成果の自己分析、他者からの評価、採択時コメントなどへの対応を含めて今後の計画を書いてください。 |
| 配　分　額 |  | 千円 | 支　出　額 |  | 千円 |  |
| 支出額内訳 | 区　　分 | 員数 | 単価（円） | 金額（千円） | 備　考 |
|  |  |  |  |  |
| 計 |  |  |  |  |
| 本事業に係るご意見・希望等 |  |

（備考）活動の成果を別途とりまとめている場合，又は印刷物，ホームページ等にまとめている場合は，作成後，本書と共に１部提出してください。提出期限日は４月末日です。

**平成24年度　東北大学等との連携による震災復興支援災害科学研究推進活動サポート経費中間報告書**

部局名：国際文化学研究科

|  |  |
| --- | --- |
| 事　業　名 | フィールドワークおよび記録・保存のスキルの被災地学生・大学院生に対する移転―震災被害状況の共同フィールドワークと記録・保存作業を通したコミュニティ再構築のサポート― |
| 代　表　者 | 所属部局：国際文化学研究科　　　　　　　　職：教授　　　　　　　　氏名：岡田浩樹 |
| 事業の実施状況 | 被災地における無形文化財の実態および課題調査についての要望が宮城県から提示されたことを受け、東松島市および気仙沼市鹿折地区において活動している。東北大学・東北学院大学の学生を帯同して無形文化財の被災・復興状況に関するフィールドワークを行い、現状把握につとめながら阪神淡路大震災の復興の記録方法、コミュニティの再構築の知識を伝え、復興のサポートを行ってきている。調査資料はコミュティ再構築のアイデアとして順次現地に還元し、同時に被災実態の指摘と関連機関への提言等を行っている。被災地住民や現地学生が無形文化財の記録・保存・復興に主体的に取り組む意識、必要なスキルを向上させる効果が現れつつある。 |
| 今後の計画 | 幸いわれわれの気仙沼市鹿折地区での調査事業に注目した気仙沼市教育委員会と気仙沼市文化協会、および東北学院大学後援会気仙沼・本吉支部から、事業への協力の申し出があった。当該部署および団体が把握している無形文化財の保存会のリストが提供されたので、今後は教育委員会等と連携しての事業を進めることが可能となった。調査範囲を気仙沼市内全地域に拡大するよう要望が提出されたため、それに沿った対応を試みる。今後は、教育委員会共催事業として市内の無形文化財保存会の悉皆調査も視野にいれ、当地で震災前から実施されている「市民大学」の一環として本学の阪神・淡路大震災の経験を活かした講演会を実施する予定である（担当講師は岡田を予定）。同様の拡大要請は東松島市から松島町、石巻市を含む領域で提出されている。 |
| 配　分　額 |  | 円 | 執行済額 |  | 円 | 執行予定額 |  | 円 |
|  | 品　名 | 仕　様 | 単　価 | 数　量 | 計 |
| 旅費･謝金 | 執行済 |  |  |  |  |  |
| 執行予定 |  |  |  |  |  |
| 事業費 | 執行済 |  |  |  |  |  |
| 執行予定 |  |  |  |  |  |
| 消耗品費 | 執行済 |  |  |  |  |  |
| 執行予定 |  |  |  |  |  |
| その他 | 執行済 |  |  |  |  |  |
| 執行予定 |  |  |  |  |  |
| 各費目合計（執行済＋執行予定） |
| 旅費・謝金 | 事業費 | 消耗品費 | その他 | 合　　計 |
| 円 | 円 | 円 | 円 | 円 |

※提出期限は平成２４年１０月２６日（金）です。

※平成２４年９月３０日までに支払いが完了しているものが、中間報告の対象（執行済）となります。申請時の内訳と異なっていても結構です。

**様式２**

**平成２４年度　東北大学等との連携による震災復興支援災害科学研究推進活動サポート経費**

**実施報告書**

部局名：国際文化学研究科

|  |  |
| --- | --- |
| 事　業　名 | フィールドワークおよび記録・保存のスキルの被災地学生・大学院生に対する移転―震災被害状況の共同フィールドワークと記録・保存作業を通したコミュニティ再構築のサポート― |
| 代　表　者 | 所属部局：国際文化学研究科　　　　　職：教授　　　　　　　　氏名：岡田浩樹 |
| 事業の実施内容 | 宮城県が、文化庁の支援を受け、被災地における無形文化財の実態・課題調査の要望したことを受け、東北大学の宮城県広域調査と連動しつつ、東松島市および気仙沼市鹿折地区において東北諸大学大学院生と現地との共同フィールドワークを実施した。具体的には、神戸大学大学院生、東北大学・東北学院大学の学生を帯同し、無形文化財の被災・復興状況の現状把握のためにフィールドワークを実施した。この際に、地域住民に対し、阪神淡路大震災の復興の記録方法、コミュニティの再構築の過程を伝え、調査資料はコミュティ再構築の資料として、現地に還元し、同時に住民と共に被災実態の指摘と関連機関への提言等を行った。事業を通し、主体的に被災地住民や現地学生が無形文化財の記録・保存・復興に取り組む意識、必要なスキルを向上させる効果が現れつつある。 |
| 事業実施の成果 | 一連の事業は、宮城県（文化庁）の復興プログラムと連動し、コミュニティの核となる無形文化財（村落祭祀、民俗芸能）の復活、保存の基礎資料として高く評価されている。特に梅屋担当の気仙沼市教育委員会と気仙沼市文化協会から、事業へ協力の申し出があり、協力関係を結んだ。無形文化財を支えるコミュニティが行政区を越えたネットワークを保持しているという指摘が高く評価され、無形文化財の保存会のリストの空白を埋めるデータベースを共同で構築した（別紙１．２．3．4）。また岡田担当の東松島市では、被災者についてのインタビュー調査を東北大、東北学院大の学生と共に集中的に行い、その資料を現地に還元するとともに、移転後のコミュティ復興のための基礎資料とした。同時に、これらの成果を国際学会、シンポジウムで発表、被災地からの発信を行った（別紙５．６）。事業協力者の高倉東北大准教授、金菱東北学院大学准教授、政岡東北学院大学教授（代表的成果３．４など：一部のみ提示）さらには学生も本事業の成果の一部を用いた成果を公刊している。特に成果３は、梅屋がサポートし、本事業による学部生の成果の公刊である。 |
| 今後の計画 | 今後は、教育委員会共催事業として市内の無形文化財保存会の悉皆調査と連携して、当地で震災前から実施されている「市民大学」の一環として本学の阪神・淡路大震災の経験を活かした講演会および仙台でのシンポジウムを予定している。本経費と連動し、東北大学を含むさまざまなプロジェクトと連携をはかり、東松島町、松島町、石巻市を含む対象地域の拡大を計画検討中である。本経費では、先の地震を受け北淡を会場として優先的に選定し、来るべき災害に向けたシンポジウムを開催する予定である。加えて現地学生の学術的な報告書および論文、学会発表をサポートする。予算は東北大学東北アジア研究センター、東北学院大学の特別予算からの支出とすることで合意している。 |
| 配　分　額 |  | 千円 | 支　出　額 |  | 千円 |  |
| 支出額内訳 | 区　　分 | 員数 | 単価（円） | 金額（千円） | 備　考 |
| 旅費レンタカー（燃料費含む）謝金録音資料テープおこし補助者の労災保険 | 11件一式4名1件4名 | 610,380 114,390231,44075,075565 | 610,380 114,390231,44075,075565 | 610,380 114,390231,44075,075565 |
| 計 |  | 1,031,851 | 1,031,851円 | 1,031,851円 |
| 本事業に係るご意見・希望等 | 本事業の目的は、第一に被災地の復興支援にあり、その中での神戸大学が貢献するための事業と解釈している。そもそも限られた単独予算では効果的な成果が上げられないのであり、他の事業や他大学・研究機関との連携を評価していただければ幸いです。 |

（備考）活動の成果を別途とりまとめている場合，又は印刷物，ホームページ等にまとめている場合は，作成後，本書と共に１部提出してください。提出期限日は４月末日です。

**本経費による活動の成果の代表的なものは以下の通りである。**

＊成果が多岐にわたり、量も多いため、別紙には一部（※）のみを添付した。要望をいただけば、添付以外の資料についてもお送りいたしますので、遠慮なくおっしゃってくださいますよう。

１．梅屋潔「遠くから私が気仙沼にこだわるいくつかの理由―『ドキュメント』のひとつとして」『震災学』第1号、249-278頁、2012年。

２．梅屋潔「震災後の気仙沼をあるく―民俗芸能を手掛かりにみるコミュニティの原像」（金田諦応住職との対談含む）『アントロポロギ』第4号、4-29、47-63頁、桜美林大学文化人類学学生研究会（OSSCA）。2013年

３．相澤卓郎「「遊び」としてのカツオ節業再建―水産加工のマイナー・サブシステンス論」金菱清編『千年災禍の海辺学―なぜそれでも人は海で暮らすのか』生活書院、134-152頁、2013年

４．金菱清編『千年災禍の海辺学―なぜそれでも人は海で暮らすのか』生活書院、134-152頁、2013年

５．高倉浩樹編『東日本大震災に伴う被災した民俗文化財調査―2012年度報告集』（宮城県地域文化遺産復興プロジェクト平成24 年度文化庁「文化遺産を活かした観光振興・地域活性化事業」）東北大学東北アジア研究センター、2013年（PDF形式。以下URLよりダウンロード可、近日中に印刷媒体で発行予定）。

<https://gp.cneas.tohoku.ac.jp/fc4e703f30462ef38d216c614061494cf49f1a22d>

６．Exel形式のデータベース。データの形式上印刷が困難であることと、個人名頻出のため、一部のみ添付した。計18行、A~Sまでのセルにインタビュー内容を記録したもの。（別紙１．２．3）

７．梅屋潔「それでも、「お年とり」の儀礼は行われた―気仙沼市鹿折地区浪板および小々汐の年越し行事にみにみる「祈り」―」（年内に高倉浩樹編で新泉社より刊行予定）

８．OKADA, Hiroki 2012, An Anthropological Examination of Differences between the Great East Japan Earthquake and the Great Hanshin Earthquake, Asian Anthropology, vol11:55-64（査読付き）.

別紙4

９．岡田浩樹**「フィールドワークおよび記録・保存のスキルの被災地学生・大学院生に対する移転―震災被害状況の共同フィールドワークと記録・保存作業を通したコミュニティ再構築のサポート―」**『神戸から東北へ-今伝えたいこと、そして学ぶこと』（神戸大学災害復興支援・災害科学研究推進室シンポジウム），2012年（平成24年）11月3日，神戸大学統合拠点。

10. 岡田浩樹「文化人類学の立場から」『シンポジウム　民俗芸能と祭礼からみた地域復興―東日本大震災にともなう被災した無形の民俗文化財調査から』（東北大学東北アジア研究センター）,2013年2月23日, 東北大学片平さくらホール（仙台）。（別紙5-１，6-２）

＊１：梅屋の公刊された成果については、必要があればコピーを提出する。

＊２：梅屋、大量の気仙沼地区に関する映像データを収集（写真、映像）、現地、宮城県、文化庁に還元保管するとともに、今後の資料化を検討している。現在編集作業を進めているが、必要があれば、DVDとして提出する。

＊３：連携協力者の成果については単行本なども含むため添付しない。必要があれば別途提示する。また、協力者の政岡東北学院大学教授は地方紙に連載を執筆しているが、これについては上記のリストに含めなかった。

＊４岡田担当の松島、東松島地区に関して、インタビューをすべてテープお越しし、現地に還元し、同時にインフォーマントのチェックの上で、自治体やコミュニティで保存する予定である。プライバシーに関わる内容も多く、現段階では第三者の閲覧を許可しないというインフォーマントとの合意がある。現段階では、チェック作業の最中であることと、大部（述べ28名、168時間）のため、別紙資料としては添付しない。

＊５岡田担当の松島、東松島地区に関して、2013年の正月のコミュニティ祭祀、獅子舞儀礼、被災者避難住宅やディケアホームでの演舞などを東北学院大学の大学院生のサポートを受けて、記録を行った。これらは現地に還元し、宮城県、文化庁に提出、さらに外部に一般公開するための編集作業中である。ただし肖像権の処理の問題があり、また、今回の成果報告の形式にそぐわないと判断し、添付していない。

＊６岡田は今回の世界の一部を用いて、2013年6月に第47回日本文化人類学会発表(東北大学高倉浩樹准教授代表)、8月に国際学会（International Union of Anthropology and Ethnological Science: in Manchester）で発表予定（proceedings paper 査読通過）。